

平成 2 5 年 9 月定例会

請 願 ・ 陳 情 参 考 資 料

(平成 2 5 年 9 月 1 2 日)

生 活 環 境 部

受理番号 受理年月日	所 管	件名及び提出者	現 状 と 県 の 取 組 状 況
24年-27 (H24.11.26)	生活環境部	湖山池高塩分化事業の中止 と見直しについて 鳥取市 個人	○湖山池の汽水湖化の取組みについては、湖内の環境改善が進まない状況が続き悪臭など生活環境も劣悪な状態となっていたことから、周辺住民の方々や農業者、漁業者等関係者の皆様から広く意見を聞きながら継続的に話し合いを重ねて方針決定されたものであり、これら住民意見を踏まえつつ、モニタリング結果に注視しながら、湖山池会議で十分協議しながら進めていく。 【取組の状況】 ◇環境モニタリング委員会等のご意見を伺いながら、水門操作の鍵となる池の塩分濃度・溶存酸素等の状況が適時に、より高い精度で把握できるよう水質観測地点を増設するとともに、水門改修検討に資する水質シミュレーション等を行い、適切な塩分濃度の管理に取り組む。 【9月議会 補正予算の概要】 ・自動昇降式水質観測地点2地点(高住、湖心部又は堀越)を新設(既存:固定式3地点)(12,600千円) ・水門改修検討に資する水質シミュレーション及び水門形式のあり方を検討(16,075千円) ・水門上下流部(2地点)に水質観測機器を導入(8,925千円) ・潟水・産卵期等に湖山川への魚の遡上を確保する魚道の設置及び取水堰の撤去(9,000千円)等 【予備費対応の概要】 ・酸素供給装置(WEPシステム)の設置 2基(9,164千円) ◇希少野生動・植物の保全のうち、カラスガイについては、発見したため池での保護を図るため、イシガイ類有識者の意見をもとに、保護・保全に向け、秋以降に稚貝生産等の具体的な調査及び研究に着手する。 【これまでの経緯】 ○平成24年1月に農業者の同意等を受け、湖山池会議で汽水湖化の方針を決定し、同年3月に汽水湖化(2,000~5,000mg/Lの塩分濃度)を開始。(平成25年9月現在 約6,500mg/L) ○周辺ため池等の調査(H24.11)においてカラスガイ等の淡水貝類の生息を確認し、保護に着手。 ○汽水湖化後は、アオコやヒシの大量発生はなく、周辺の自治会・役員アンケート(H24.9)では、95%が「汽水湖化の取組みを継続、または数年間は経過観察すべき」と回答しており、周辺住民の多くは現在の生活環境の改善を歓迎している状況。 ○平成25年3月にカラスガイ生息環境の保全に向け、発見したため池内の成貝・稚貝及び魚類等の調査を実施するとともに、汽水湖化の影響を受けない水域に避難・移植していたハスを福井地区の湖岸に淡水域確保のため移植を完了。 ○平成25年5月には、 ・湖山池将来ビジョンの理念・目標の達成のため、鳥取市と共同で「湖山池将来ビジョン推進計画(第3期湖山池水質管理計画)」を策定。 ・塩分濃度に加えて、溶存酸素(DO)測定テレメーター化による連続観測体制を確保・強化しつづきめ細かな水門操作に着手。 ○生態系保全のため、有識者で構成する環境モニタリング委員会を開催(H25.7.22)。 ○将来ビジョン達成に向け、市民等で構成する「湖山池将来ビジョン推進委員会」を開催(H25.7.28)。